

<全体分析>

試験時間 2科目150分

解答形式

記述, 論述, 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は例年通り3題であったが、問題文の分量や設問数が増加し、論述問題の指定行数も昨年の23行程度から26行程度へとやや増加したことから、全体としての分量は昨年よりやや増加した。また、昨年よりも難度の高い考察問題が増加しており、難易度はやや難化したと考えられる。

出題の特徴

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1～3行程度の論述問題が多い。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択	動物の反応 遺伝子	生物	L 実験群2では、活動電位を発生する神経細胞の組み合わせは実験群1の2日目と同じであったが、その興奮の頻度が実験群1の2日目よりも低かったと考える。	やや難
第2問	記述 論述 選択	光合成 植物の反応 細胞 遺伝子	生物	A 選択肢(1)は、設問文の解釈によっては正解になり得る。 B (3)については、熱帯雨林では蒸散で水分が失われにくい、樹上や岩場といった水分が獲得しにくい環境で生育する着生植物において、CAM型の光合成を行うことで水分の喪失を少なくする意義があると考えられる例もある。	標準
第3問	論述 選択	発生 細胞 タンパク質 遺伝子	生物	D 実験2で送り手細胞株Bの細胞内でドット状の青色蛍光が観察されたことから、ノッチタンパク質の切断された細胞外領域が、エンドサイトーシスによって送り手細胞株Bに取り込まれたと判断する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、その内容を正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心をもち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。